

14世紀中葉プロヴァンの会計記録再考

- 1360年会計簿エディションの試み -⁽¹⁾

花 田 洋 一 郎

はじめに

14世紀中葉のフランスは、政治的にも社会経済的にも大きな危機に直面していた⁽²⁾。都市共同体も農村共同体も同じく、戦争などのさまざまな困難に対応するためにあらゆる策を講じていた（中でも最大の懸案は囲壁・塔・門の改修・整備であった⁽³⁾。実際、多くの中世都市に伝来する都市評議会審議録《registre de délibérations du Conseil de Ville》には、この問題の審議に関する記述を多く見いだす事ができる^(3a)）。戦時中は常に攻囲戦の脅威に晒されていた都市共同体では、とりわけその行・財政制度の刷新が、硬直化した既存の諸制度ではもはや現実に対応できなくなっただけにますます急務であった⁽⁴⁾。通説では14世紀中葉という時代状況は以上のように説明されるが、しかし現実にこの時期の都市の社会経済的状况について詳細に検討した、日本語で書かれた仕事はいまだ少ない（その意味で、民衆蜂起に取り組んだ近江吉明氏⁽⁵⁾や国王租税制度の成立過程を丹念に追った堀越宏一氏⁽⁶⁾の研究は先駆的の仕事として評価できよう）。

ところで筆者はかつて拙著第6章⁽⁷⁾において、14世紀中葉シャンパーニュ地方の都市プロヴァンにおける都市行・財政制度の素描を行ったことがある。ここでは、プロヴァン市立図書館古文書部に手書本166番として伝来する会計簿（以下、本稿では1360年会計簿と呼ぶ）の分析を通じて、この時期における都市制度が14世紀中葉以前の都市行・財政制度（コムューン体制）とどのように変化しているのかを考察した。そこでの結論では、この記録が直接税であるタ

イユの徴収帳簿であると同時に都市会計簿としての特徴をもち、とりわけ文言の詳細な分析からプロヴァンにおける都市行・財政制度転換期の諸相を垣間見せてくれる貴重な史料であるとするものであった。

本稿は、中世後期プロヴァン史のみならずフランス中世都市史研究にとっても貴重な、この1360年会計簿のエディションを試みたものである⁽⁸⁾。エディション作成は、プロヴァン市立図書館に伝来するオリジナルと、歴史史料研究所(IRHT: Institut de Recherche et d'Histoire des Textes)作成によるマイクロフィルム(所蔵マイクロフィルム番号52821)、国立古文書学校教授ブルクロ(Félix Bourquelot 1815-1868)によるノート⁽⁹⁾、の3種のテキストを参照した。また判読困難な箇所については、元プロヴァン市立図書館主任司書アンヌ・マルザン(Anne Marzin)さんの協力を得た。

1. 史料について

本稿がエディションの対象とする記録は、プロヴァン市立図書館所蔵手書本166番として伝来している。寸法は縦280mm 横204mmである。記録は羊皮紙に書かれ、全部で8葉、16頁からなる。頁及び葉の番号付はなく、記載は14頁までで、残り1葉(2頁)は空白となっている。紙製の濃青色の表紙が付されているが、この装丁がいつなされたものかは不明である。湿気による記録の劣化は全体的に軽微であり、一部判読不能な箇所はあるものの、比較的読みやすい状態である(本稿末尾に掲載した2枚のマイクロフィッシュ写真を参照)。この記録にはオリジナルの他に、そのコピーが1通伝来している。それは前述のブルクロによる『プロヴァン史執筆用覚書及び史料集』(全9巻)の第4巻(プロヴァン市立図書館所蔵手書本150番)に、彼自身の手で筆写されたものである。

会計簿冒頭部の文言から、この記録の記載年代は、1359年5月8日~1360年5月1日(新暦表記では1360年~1361年)であることが判明する。字体は1人の手によるものようであり、中世フランス語とローマ数字を用いて書かれている。記載されている貨幣単位は、エキュ金貨、グロ銀貨(古グロ銀貨と併用)、

デナリウス銀貨(トゥール貨)が主である。

記録は大きく分けて3つの部分で構成されている。最初に都市会計に関する部分、続いてフランス大元帥ロベール=ド=フィアンヌの特任状のコピー、そして最後に1357年タイユ未納者リスト、である。本稿ではこれら3種の記録全体をエディションの対象としている。

なお会計簿の構成内容については[表1]に整理しているとおりである。

表1 1360年会計簿の構成

(記載順。貨幣単位略号 e. = ecu/g. = gros/v.g. = viel gros/liv. = livre/s. = sou/d. = denier/t. = tournois)

項目	記載内容	手書本	ページ
冒頭部	会計責任者/会計内容/会計年度/監査委員会	fol.1 r°	p.196
タイユ未納分の支払と未納額	タイユ徴収係 Pierre le François からの入金と未納額 入金 50¼ e. 3 v. g. 12 d. t., 未納額 195¼½ e. 3 v. g. ½ g. タイユ徴収係 Pierre d'Espongray からの入金と未納額 入金 151½ e. 12 d. t. : サン=タクール/ サント=クロワ/サン=ピ エール地区に関して 未納額 304¾ e. 1 g. タイユ徴収係 Odart de Suilainnes からの入金と未納額 入金 1 e.10 s. 未納額 12½ e.119 s. Pierre Despongny からの追加入金10 e.3 g.12 d. 入金総額 214½ e.13 s. 未納額 500¾ e.1 g.119 s.t.	fol.1 v°	p.197
徴収経費総額	36¾ e.1 g.		p.200
入金額と未納額の総額	729½ e.6 liv.12 s.	fol.2 r°	
支出	都市守備隊長 Simon へ、パリ出張時の支出のために [出張内容: 堀の漁業権を国王から獲得] Simon へ、ブレイ出張時の支出のために 都市の使者 Jaquemart へ、パリ出張のために 高台区の小間物商に都市の文書作成用の紙代として		p.201
支出総額	36 e.¾ 1 g.	fol.3 r°	
控除	複数のプロヴァン住民/サン=タクール分院長などから		

	Jehan Meresse に、彼に対する都市の負債返済 Lucas le Graz に、彼の妻が支払った分の値引分返済 Pierre le Griois に、彼の支払いの値引分返済 Jehan de Ponz le Viel に、彼に対する都市の負債返済 会計係 Pierre de Juilli への給与	fol.3 v°	p.202
控除と給与総額	170 1/3と 1/4 e.8 s.t.		
支払と控除総計	207 1/4 e.1 g.7 s.t.		
前述のタイコ 徴収係による 未納額支払	Pierre le François / Pierre d'Esprongny / Odart de Suilainnes	fol.4 r°	
支払総計 + 収支差額	723 e.2 1/2 g.6 liv.6 s.t. + 6 e.4 g.		p.203
守備隊会計簿 の収支差額	この会計業務も Pierre de Juilli が担当 超過支出分10 e.5 g.1 tiers de groz は都市の負債		
会計年度中の 文書作成費用	50 e.		
Pierre de Juilli に対する都市 の負債総額	60 e.5 g.1 estorllin.		
Pierre de Juilli の受取	上述差額6 e.4 g. / 1 リブラにつき 4 デナリウスの課 税について受取5 e. / 未納タイコ5 月分の収入役)から 12 1/2 e. / 塩税未納分1 1/2 e. / 家屋 4 軒に関して4 e.		
受取総額	29 e.3 g.		
Pierre de Juilli の受取分を差 引した都市の 最終負債総額	31 e.11/3 g.		
Pierre de Juilli へフランス大元帥 Robert de Fiennes による、都市守備隊 及び都市の修理のためのタイコ徴収に関わる特任状のコピー		fol.4 v°	pp.204 ~ 5
1357年12月25 日頃のタイコ 未納者リスト	Pierre Despongny のリスト : 135名 Pierre le François のリスト : 84名 Odart de Suilainnes のリスト : 22名	fol.5 r° 7 v°	pp.206 ~ 11

《典拠》拙著298 299頁掲載の [表10] を一部修正したうえで、手書本を基に筆者が作成。
《注記》表右端のブルクロ・コピーは、ブルクロの筆写版(プロヴァン市立図書館所蔵手書本150番)
におけるページ数を意味する。

2. 史料に関する新しい知見

本稿はエディション作成に主眼を置いているので、この記録の詳細な分析は

意図していない。したがって記録に関する補足的な情報として拙著出版後に筆者が得たものを、以下簡単ではあるが述べるに留めておく。

筆者が得た新知見の第1は、拙著においてこの記録の文言から筆者が想定した都市評議会《Conseil de Ville/consoil》の存在を間接的に示唆する、14世紀中葉におけるコミューンの廃止、すなわち市長《maire》と都市参事会《échevinage》からなる市政機関の廃止が、新しい研究によって確認されたということである。ヴェロニク・テラス氏の研究によれば⁽¹⁰⁾、プロヴァンの市長と都市参事会は1355年に廃止されたとされる(ただし筆者が参照できた論文には史料に基づく論拠が示されていない!)ので、この問題の検討はまだできていない。根拠は彼女の未刊行博士論文にあると思われる)。すなわちこの時期に、都市参事会から都市評議会へと市政機関の形態が、直後かそれとも徐々に(段階的に)かは不明であるが、変化したと考えられる。1350年代に市政機関の構造変化が生じたとする筆者の想定は、まだ確実とまではゆかないまでも補強されたと言える。

新知見の第2は、会計簿に記載された担税者について職種が判明するケースがいくつか見つかった点である。残念ながら都市全体に関する社会職能的分析が可能になるほどの数ではないが、少なくとも当時の都市社会の一側面を垣間見せる貴重な情報であることに変わりはない。職種判明分はごくわずかであるが、整理すると[表2]のようになる(職種に関する用語については史料に記載された綴りを載せた)。

表2 会計簿に記載された担税者の職種とその人数

織元 drappier	2	蠟燭工 chandelier	1
剪毛工 tondeur	2	油屋 huilier	1
毛皮商 pelletier	2	鍛冶屋 fevre	2
皮鞣し工 tanneur	1	蹄鉄工 mareschal	3
居酒屋 tavernier	1	金銀細工師 orfèvre	1
代訟人 procureur	3	錠前工 serrurier	1
両替商 changeur	2	靴直し savetier	1
高利貸 usurier	1	小間物商 mercier	1
魚屋 poissonnier	1	屋根葺き職人 couvreur	1
菓子職人 pasticier	3	大工 charpentier	6
果物屋 fruitier	1	石工 masson	6
チーズ屋 fromager	1	長柄柄杓工 louchor	1
パン焼き職人 fourmier	1	桶作り cuvelier	1
		荷車引き chaurrier	1

職種が判明する者の数は、上記の[表2]に見られるとおり48名である。会計簿の担税者(未納者)リストに掲載されている人名は294件(若干名重複の可能性あり)であるので、職種判明率は約16%にすぎないが、情報としては興味深い。非常に断片的な情報であるのであくまで推測の域を出ないが[表2]の情報から分かることをいくつか指摘してみよう。まず織元や剪毛工が現れていることから、プロヴァンの毛織物工業が完全に衰退しているわけではないと推測できる(ただし染色工が現れていないのは奇妙である)。また大工や石工が比較的多く現れていることは、プロヴァン都市経済活動が持続していることを示唆しているのではなからうか。少なくとも黒死病襲来⁽¹⁾からおおよそ10年たった都市の姿としては、凄惨な状況が続いているという印象は受けられないように思える。もちろんこれだけで戦争災禍のただ中にあるプロヴァン都市経済が、復興局面にあるのかそれとも衰退局面にあるのか判断を下すことはできない。プロヴァンに関しては前後の時代について比較可能な材料がないので、ここでの指摘は全くの印象論に過ぎないことは否めない。

本稿は平成15~17年度科学研究費補助金基盤研究(B-2)「西欧中・近世における国家の統治構造と機能」(研究代表者:九州大学大学院人文科学研究教授神寶秀夫)の研究成果も一部含む。

注

- (1) 本稿は拙著第6章で行った叙述とは別の論稿である。ここでは拙著刊行後に得られた新しい知見を取り入れているからである。本稿で試みた14世紀中葉の都市会計簿のエディションは、同様の試みが我国学界はおろかフランス学界においても稀であることを考慮すると、無意味ではないであろう。
- 都市会計簿あるいは課税記録などの会計記録に関する近年の我国における仕事として、次の研究が参照に値する。中野忠「17世紀ロンドンの財政史料 - City's Cash Accounts 1661/2 -」『早稲田社会科学研究』58, 1999年, 237-262頁; 同「近世ロンドンの都市財政 - 1643/4年度会計簿の分析から -」『早稲田社会科学総合研究』12, 2001年, 9-34頁; 中野忠/小西恵美/山本千映「17世紀末イギリスの課税記録」『早稲田社会科学総合研究』33, 2003年, 1-30頁; 中野忠『王政復古期ロンドンの都市財政に関する研究』(文部科学省科学研究費報告書, 基盤研究(C)2)平成11年度~平成13年度, 課題番号10630083)2002年。
- (2) 例えば、井上泰男「初期ヴァロア朝の「政治危機」について - 「国王顧問会」と

- 「身分制議会」 - 』『北海道大学人文科学論集』3, 1965年, 1-38頁; フィリップ・コンタミーヌ(坂巻昭二訳)『百年戦争』(文庫クセジュ864)白水社, 2003年, 28-88頁を参照。
- (3) 農村共同体による防衛に関する最新の研究成果として, Ch. Desplat (Éd.), *Les Villages face à la guerre(XIV^e-XVIII^e siècle)*. Actes des XXII^{es} Journées internationales d'Histoire de l'Abbaye de Flaran 8-10 septembre 2000, Toulouse, 2002. さらに都市共同体の防備をめぐる研究成果として, D. Le Blévec (dir.), *Défendre la ville dans les pays de la Méditerranée occidentale au Moyen Age*. Actes de la journée d'études du 6 mars 1999, *Monspelisensia Medievala 1*, Montpellier, 2002を参照。
- (3a) この点については, シャンパーニュ諸都市に関しては S. ギルベール女史(ランス大学名誉助教授)によるシャロン=シュル=マルヌを舞台とする一連の研究を参照せよ。一例を挙げれば, S. Guilbert, *Relations entre les administrations municipales des villes champenoises pendant la guerre de Cent Ans*, dans G. Clause, S. Guilbert et M. Vaïsse, (dir.), *La Champagne et ses administrations à travers le temps*. Actes du colloque d'histoire régionale, Reims, Châlons-sur-Marne, 4-6 juin 1987, Paris, 1990, pp.131-140.
- (4) A. Rigaudière, *Gouverner la ville au Moyen Age*, Paris, 1993, p.496.
- (5) 近江吉明『黒死病の時代のジャクリー』未来社, 2001年。
- (6) 堀越宏一「14世紀フランスにおける会計院と国王財政」高山博・池上俊一編『宮廷と広場』刀水書房, 2002年, 67-88頁; 同「14世紀後半のフランス王国における租税制度の成立」渡辺節夫編『ヨーロッパ中世の権力編成と展開』東京大学出版会, 2003年, 185-208頁。
- (7) 花田洋一郎『フランス中世都市制度と都市住民 - シャンパーニュの都市プロヴァンを中心にして -』九州大学出版会, 2002年, 135-149頁。
- (8) 同時代の他のフランス中世都市に関して伝来する会計記録もいくつか刊行されており, 比較研究も可能である。南仏都市アルビについて, A. Vidal, (éd.), *Comptes consulaires d'Albi (1359-1360)*, Toulouse, 1900/Id., (éd.), *Douze comptes consulaires d'Albi du XIV^e siècle*, t.1, Albi, 1906. 同様に南仏都市サン=アントナンについて, R. Latouche, (éd.), *Comptes consulaires de Saint-Antonin du XIV^e siècle*, Nice, 1923がある。またアルビの1359~1360年度会計簿を用いた直接税の研究として, J. Neyer, *L'impôt direct à Albi d'après les comptes de 1359 et 1360*, dans D. Menjot et M. Sánchez Martínez (coordinateurs), *La fiscalité des villes au Moyen Age (Occident méditerranéen)*, t.2: *Les systèmes fiscaux*, Toulouse, 1999, pp.365-372がある。同時代の中仏諸都市に関しては, ラ・ロシェル(1360~1361年度分), サントンジユ(1361~1362年度分), アングレーム(1361~1362年度分)について, R. Favreau, (éd.), *Archives historiques de La Saintonge et de l'Aunis*, t.LIII, Aunis, Saintonge et Angoumois sous la domination anglaise 1360-1372. *Comptes et pièces diverses tirés des archives anglaises*, Société des Archives historiques de La Saintonge et de l'Aunis, 1999が利用できる。さらに時代は少し遡るが, グルノーブルについては1338~1340年度に関して, A. Devaux, *Comptes consulaires de Grenoble en langue vulgaire (1338-1340)*, Extrait du tome 55 de la *Revue des langues romanes*, 1912, Laffitte Reprints, Marseille, 1978がある。
- (9) Bibliothèque municipale de Provins (Fonds ancien). Manuscrit no 150: Provins. Notes et documents recueillis par Félix Bourquelot pour servir à une histoire de cette ville et rangés par ordre chronologique, t. 4.
- (10) V. Terrasse, *Le Cartulaire de la ville, destinées d'un manuscrit médiéval (fin du XIII^e siècle-début du XIV^e siècle)*, dans *Bulletin de la société d'histoire et d'archéologie de*

l'arrondissement de Provins, no 155, 2001, p.37.彼女の仕事は、プロヴァンのカルチュレール（プロヴァン市立図書館所蔵手書本89番）に関する史料論的分析を主な内容としている。彼女の学位論文は、Véronique Terrasse, *La commune de Provins (1152-1355). Histoire institutionnelle, administrative et sociale*, Thèse de doctorat de l'EHESS, sous la direction de M. Philippe Braunstein, Directeur d'Étude à l'EHESS, soutenue en décembre 2000である。未刊行であるため筆者未見である。

(11) プロヴァンでは、黒死病（ペスト）は都市住民の半分の命を奪ったとされる。F. Bourquelot, *Histoire de Provins*, t. 2, 1840, p.16.

Introduction

La Bibliothèque municipale de Provins conserve, sous la cote no 166, deux cahiers distincts. Le premier est un compte de frère Pierre de Juilli (1360), document encore inédit. Le second est un compte de Pierre Fréron (1450), édité par Jean Mesqui dans son ouvrage monumental en 1979. Dans le présent article nous nous proposons de transcrire le premier de ces manuscrits.

Le compte est composé de 8 feuilles de parchemin, format 280 × 204 mm. Seuls sept feuillets ont été remplis et un dernier est resté vide. Ils n' étaient pas, à l'origine, numérotés, et nous avons donc introduit notre propre foliotation. Ce cahier est recouvert d'un papier bleu très foncé.

Afin de réaliser une transcription fidèle aussi bien que possible, nous avons consulté l'original ainsi que le microfiche fabriqué par l' I.R.H.T. et en plus les notes et documents recueillis par Félix Bourquelot, professeur de l' École Nationale des Chartes et historien provinois (1815-1868), dans lesquelles il s' est efforcé de transcrire le compte. Ses manuscrits sont conservés sous la cote no 150 dans la Bibliothèque municipale de Provins.

Document

Compte de Frere Pierre de Juilli, cellerier des recettes et mises par li faites pour la ville de Provins (1360)

A : Original, parchemin, Bibliothèque municipale de Provins (Fonds ancien), manuscrit 166.

a : Bibliothèque municipale de Provins (Fonds ancien), manuscrit 150. Notes et documents recueillis par Félix Bourquelot pour servir à une histoire de cette ville et rangés par ordre chronologique, t.4, pp.196-211.

Mention : Félix Bourquelot, Notice sur le manuscrit intitulé Cartulaire de la ville de Provins (XIII^e et XIV^e siècles), dans *Bibliothèque de l'École des Chartes*, t.17, 1856, p.460 ; Jean Mesqui, *Provins. La fortification d'une ville au Moyen Age*, Paris, 1979, p.257.

(Fol. 1 r^o)

C'est le compte frere Pierre de Juilli, cellerier des recettes et mises par li faites pour la ville de Provins des deniers dehus a ycelle pour deffauz des taailles jadis recehues par Pierre le François et Pierre despoigny, baillez et renduz pour leurs comptes.

Item d'aucunes composicions de genz dehors rendues en deffauz par Odart de Sulaines et des deniers dehus a la ville pour fins de comptes cloz et affinez par les deputez a oir yceuls comptes faites ycelles recettes et mises depuis le VIII^e jour de may CCCLIX juques au premier jour dudit mois de may, l'an revolu par lettres de commission seur ce faites et baillees audit cellerier par noble et saige homme monsseigneur Simon de Joy ad ce temps capitain, donnees ledit jour desquelles la teneur appert en la fin de ce compte rendu a honorables personnes et saiges Hugue de Malay, Oudart Durgant, et Jehan de Breuillecourt le XXII^e jour d'avril CCCLX par commission du connetable.

Recepte et premierement des deffaur renduz par Pierre la François qui tant de personnes seculieres comme l'eglise montorent a IIcXLVII escuz et demi III viez groz et XII de tourn. en tout.

Du prieur et couvent de Saint aioul	XXXV escuz
De Colin Huillet	II escuz
De Martin Henaust	IIII escuz
De Jaque Coille molle	II escuz
De Gautier le Boscheron	demy escu

De la fame feu Jehan de Vinci pour XVI s.tourn. III quarz d' escuz et XII d.
De Jehan de Meleum VI escuz

Some L escuz I quart et XII den.tourn.

Item en parties d'iceuls deffaus qui ancor sont a paier. De personnes tant d'eglise comme seculiers dont foi et esclarcissements seront faits en la fin de ce compte.

IX^{xx}XV escuz quarz demy III viez gros
et demy gros

Somme des deffauz au François paiez et a paier ensemble II^cXLVIII escuz et demi III viez gros et XII d. tourn. et est semblable a la principal somme d'iceuls deffauz dessus escripte qui en tout furent baillez audit cellerier pour recevoir et est fin quant a ceste recepte.

Recepte des deffauz renduz par Pierre de Juilli [Pierre d'Espongray? ¹], qui tant de personnes seculieres comme d'eglise montorent a IIIIcLVI escuz III quarz I viez gros en tout.

Saint ayoul

Du prieur de saint aioul senz son couvent	XXX escuz
De Jehan de Yenoune	V escuz
(Fol. 1 v ^o)	
De Jehan Bonnelot	IIII escuz
De Jehan Morel, drappier	III escuz
De Thiebaut de Geranne	I escu
De Jehan Chauferis	I escu

De Gautier Hemot	I escu demi
De Guillot de la Bootiere avec VI s.	I escu demi
De Jehan Grenaust	III escuz
De Guillaume Giuart	I escu
De Jehan de Beaunez, tavernier	II escuz demi
De Martin Henaust	III escuz
De Jehan de Meleum	I escu
Saint Croiz	
De Pierre d'Espaigny	VIII escuz et demi
De Perrin Corrat	IIII escuz
De maistre Nicholas de Buillecourt	II escuz
De madame,jadis fame feu Jehan de Veci	III escuz
De Jehan Climart, changeur et sa dame	VI escuz
De Thevenin le Chatroinat	I escu
De Thomas le Laute	II escuz
De Estienne le graz	IIII escuz
De Hervillon le pasticier	III escuz
De Gilet Putecher	III escuz
De Picart de Bar	I escu
De Jehan Baudier	I escu
De Jehan le chandelier	I escu
De Jehanne la Tannote	VII escuz demi
De Estienne de Clofontaine	I escu demi
De Pierre Tooble,Pelletier	II escuz
De Jehan de la Fontenne	II escuz
De Jehan de compenz le viel	I escu demi
De Lucast le graz a cause de la fame	VII escuz demi

De Jehan de Pour le Viel	demi escu
Saint Pere	
De Jaques Hugues	V escuz
(Fol. 2 r ^o)	
De Odin le Jourbisseur	III escuz
De Raoulin Ginehart, charpentier	III quarz escu
De Roger le tondeur	demi escu
De Aliet d'aucerre	demi escu
De maistre Pierre de Boolot	III escuz
De Guillaume Poincet	X escuz
De Jehan Meresse	IIII escuz
De Pierre le Gras	VI escuz
Somme VII^{xx}XI escuz et demi et XII d. tourn.	
Item en parties d'iceulz deffauz qui ancor sont a paier de personnes tant d'eglise que seculieres	
III ^o IIII escuz III quarz I gros	
Somme des deffaus Pierre d'Espongray paier et a paier, IIII ^o LVI escuz III quarz I viez gros et en semblable a la principal somme d'iceulz deffaus dessus escripte qui en tout furent baillies audit cellerier pour recevoir et en fin quant a ceste recepte.	
Recepte des deffaus des composicions avec genz dehors bailler par Odart de Suilainnes et valorent en tout XIII escuz et demi VI l. IX s.	
De Bertaust le pointre du mes Robert	I escu

De Jehan le Man et Thevenin Fonchon

X s.

Somme ung escu et X s. tourn.

Item en parties d'iceulz deffauz qui ancor sont a paier XII escuz et demi et CXIX s. tourn.

Somme des deffauz Odart de Sulainnes paier et a paier tout ensemble VIII escuz et demi et VI liv. IX s. tourn. et est semblable a la principal somme d'iceuls deffauz escripts, et est fin quant a ceste recepte.

Recepte des fins de comptes par ledit cellerier.

De Pierre Despongny pour plus receu que mis par la fin du compte de la dicte taaille par lui rendu aus commis de ce

X escuz III gros XII d.

Somme par soy

(Fol. 2 v°)

Somme de toutes les receptes paiees IIcXIII escuz et demi et XIII s.

Somme de deffauz a paier nombres comme recepte

Vc escuz III quarz I gros CXIX s.t.

Somme toute des receptes faites et des deffauz a paier ensemble VIIcXXIX escuz demi, VI liv. XII s. et est paraille ne s'en fault que XII d. a la somme toute des deffauz des dessus diz qui li furent baillier a querir et a la recepte des fins de comptes.

Mises par le dit cellerier des receptes dessus escriptes.

Payes

Odart de Sulainnes pour despens de mons. Symon ad ce temps capitain faiz a Paris entre l'ascension et Penthecoste LIX ou il ala de par la ville et fut lors que la peicherie des fossez fut empetree, rendu au dit Odart par mandement de Jaques Hugues ad ce commis donne XII^e jour de juing LIX et quitance dudit Odart faite XV^e jour d'iceli mois ensuigent XXVIII escuz demi

Amons Symon de Joy pour les despens d'aler a Bray ledit XII^e jour de juing avec les gens d'armes de ceste ville a la journee qui assignee y estoit pardevant les commissaires sur les deffiances des noble bailli a lui pour ce par mandement de Jaques Hugues a quitance dudit messire Simon fait le mandement et quitance yceli jour du mois de juing X escuz

A Jaquemart le messagier de ceste ville pour aler a Paris XV^e jour de juing LIX seur aucunes besongnes acordees par monseigneur le conestable et autres choses dont l'en rescripte a maistre Jehan des Marer, baillie pour ce par mandement de Jaques Hugues et quitance dudit Jaquemart, donne ce dit jour II escuz

Item le mercier du chastel, pour pappier hen de li pour faire des escriptures de la ville paie par mandement de Jaques Hugues donne (Fol. 3 r°) XX^e jour de mars derrenier passe et vault mandement et quitance III viez gros

Somme des paies faites XXXVI escuz III quarz I gros.

Rabais et deduccions a plusieurs

A plusieurs denommes en une cedula de Estienne de Lisines pour paiement a li fait rabatu par expres mandement de Jaques Hugues, donne le XV^e jour de juillet CCCLIX

LII escuz demi et VI s.

Au prier de saint aioul pour remission a li fait par acort et compte du consoil avec le rabatu de le LXV escuz dont il estoit en deffaut par Pierre le François et Pierre d'Espongny par mandement du consoil donne derrain jour de juing LIX

LV escuz

A Guillaume Poincet pour parties exprimees en ung mandement du consoil donne XV^e jour de janvier LIX et fait mandement et quittance ensemble rabatu, pour ce

X escuz

A Jehan de compeens le viel seur certenne somme que la ville li devoit, rabatu par mandement de Jaques Hugues et maistre Pierre de Boolot et quittance d'iceli compenz, donne tout XVI^e jour de mars passe

I escu demi

A Jehan Climent changeur, pour li et sa dame, selon certain compte par li fait aus auditeurs d'iceulz comptes pour la ville, si comme appert par certificacion d'eulz rabatu pour ce par mandement du consoil et certificacion dessus dite et nous du cure de saint Pere et Adam Ragot ad ce commis pour le temps

VI escuz

A Martin Heiraut pour rabatus a li fait par certain mandement de Jaques Hugues contenu au compte des garnisons en la fin du chapistre des rabais faiz a la tierce monnoie seur certaine somme a li dehue pour rest de draps de l'ost d'artois rabatu a li pour ce

VIII escuz demi

A maistre Pierre de Boolot pour compte et rabats a li fait pour li par maistre Nicolas de Bruillecourt a sa dame par lesdiz auditez de comptes rabatu par vertu d'un mandement du consoil dont mencions est dessus faite par la certificacion d'iceux audiet seur ce faite

VIII escuz

A Jehan Meresse, pour parties a li dehues, exprimees en un mandement (Fol. 3v^o) de Jaques Hugues donne XX^e jour de mars et rabatu par vertu d'icelui mandement et quittance dudit Meresse fait et donne les mandemens et quittance d'une mesme journee

III escuz

A Lucas le graz a cause de Jehanine de Vinci, sa fame rabatu par mandement du consoil pour certaines causes qui y sont exprimees et quittance dudit Lucas donne tout VI^e jour d'avril l'an LX present

VIII escuz quarz XII d.

A Pierre le Griois pour parties contenues en un mandement du consoil rabatu par vertu dudit mandement et quittance d'iceli Griois fait tout VI^e jour d'avril dessus dit

VI escuz

A Jehan de Ponz le Viel seur certaine somme que la ville li devoit rabatu par mandement de Jaques Hugues et maistre Pierre de Boolot et quittance dudit Jehan de Ponz tout fait et donne d'une journee pour ce

demi escu

Audit cellerier pour ses gaiges de ceste presente recepte taunez a XII d. pour livre par sa commission dessoulz transcripse sont de XX escuz ung pour les II^eVI escuz demi XIII s. recuez par li comme dit est

X escuz I tiers

Somme des rabais et gaiges ensemble VIII^{xx} escuz I tiers et I quart demi d'escu et VIII s. tourn.

Somme toute de ladite mise et rabais II^eVII escuz un quart et I gros et VII s. t.

Descharges en sommes et parties qui encor sont dehues desdiz deffauz.

Primo en parties dehues desdiz deffauz renduz par Pierre le François traites et concluses du livre et atrait qu'il en bailla a present rendues avec ce compte soulz le seel dudit cellerier

IX^{xx}XVIII escuz demi et demi gros

Item en parties dehues des deffauz renduz par Pierre d’Esprongny toutes concluses du livre et attrait qu’il en bailla a present rendues avec ce compte par ledit cellerier et soutz son seel comme dit est

III^oIIII escuz trois quarz I gros

Item en parties des deffauz renduz par Odart de Suilannes raportees a part par ledit cellerier par la maniere des precedens XII escuz demi et XIX s. t.

Somme de ces deffauz qui ancor sont dehu

V^oXV escuz demi trois quart gros demi cent XIX s.t.

Somme des mises precedens et des deffauz ou parties qui encor en sont dehues tout mis ensemble VII^oXXIII escuz II gros demi et VI liv. VI s. tourn. qui comparees aus receptes et faite deduccion (Fol. 4 r^o) d’icelles receptes contre les mises ledites receptes seurmontent VI escuz IIII gros dont il n’a VI si qui ont este ramene a II gros et de qui ledit cellerier doit a la ville pour plus receu que mis.

Item la ville doit audit cellerier pour reste son compte des garnissons pour plus mis que receu.

X escuz V gros et I tiers de gros

Item pour les gaiges des escriptures de la ville du tiers jour de may LIX jusques audit jour prochien venant l’an revolu

L escuz

Somme de ses parties a lui dehues LX escuz V gros I estorllin seur qu’il a receu primo VI escuz IIII pour plus receu que mis par ce compte.

De maistre Hugues de Malay receu de l’imposicion de IIII d. pour livre et etc. par la main Jehan Meresse le jeune

V escuz

De Pierre le teleron receveur des deffauz de mars ete X roiaux d’or valent
XII escuz demi

Item il doit a la ville pour gabelle de sel vendu pardevers Philippon Jaquin
I escu demi

Pour quatre de la meson ou demeure Guillaume Neiret en la recepte Nicolas le Damoiseil et Thibaut de Bar
I escu demi

Pour quatre de la meson ou demeure Madame de la grace en la recepte Pierre dannoy et Guillaume le Villois
II escuz demi

Somme des paies a li faits et qu’il doit a la ville, ensemble
XXIX escuz III gros

Deduccion faite de ce qu’il doit sur ce qui li est dehu ce qu’en li doit seurmonte XXXI escuz I gros tiers de gros qui dehu li sont tout conclus et rabatu. (Fol.4 v^o)

Copie

Symon de Joy, seigneur de Villeneuve la Cornue, capitainne de Provins a dan Pierre de Juilli, cellerier de Joy, salut et dillection. Les lettres de nostre tres cher et redoubte seigneur monseigneur le connestable de France avons recehues contenant la forme qui s’enssuit.

Robers, sires de Fiennes, connestables de France, lieutenant du roy monseigneur et de monseigneur le regent en toute le comte de Champagne et de Brie en tout le bailliaige de Senz et de Vermandois, jusques a la riviere d’Oise et es ressors d’iceulz au capitaine de Provins ou a son lieutenant Salut.

Nous vous mandons et commectons que toutes les personnes qui dehuesnent vous apparoitront devoir deniers ou autres choses quiconques pour taailles genz

d'armes et pour la refection de la dicte ville vous contraingnier viguerusement et senz d'elay ou faites contraindre tout auxin qu'il en adcoustume a faire pour debtes royaulx a paier et raporter lesdiz deniers par devers le receveur d'iceux, yceulx mettre et convertir aux choses dessus dites et nous mettons a tous que a vous et a vos deputez en ceste partie obeissent et entendent diligemment. Donne a Troies le VI^e jour d'aoust l'an de grace mil CCCLIX.

Par vertu desquelles lettres, par l'assentement et volonte de Denis Chertemps nostre compaignon, capitain dudit Provins et autres esleuz avec nous au consoil et gouvernement de ladite ville, nous confians du senz loistte et discrecion de vous, vous mandons et commectons que tout ce qui vous apparoitra estre dehu a la dicte ville de quienconques personnes par la fin de leurs comptes de toutes receptes dont il se seront entremis pour la ville et auxin les deffauz apportez par Pierre d'Esporgni, Pierre le François et autres establiz a recevoir taailles et autres subvencions establies a quelque fins de tout le temps passe, vous exigez, querez et recevez en nom et pour la dicte ville et de ce que vous recevrez, leur bailliez voz lettres de quittance ou ce pour aucune cause raisonnable sentez la ville estre tenue a yceulz debteurs, si leur en faites deduccion en present quittance de eulz par lesquelles raportant ce qui par vous leur sera einxin deduit sera aloes en voz comptes et rabatu de voz receptes, en faisant contraindre les refusenz de paier par prinse, vendue et explectacion de leurs biens, ou par prinse et detencion de leurs corps, selon ce que vous posrez plus hastivement les introduire a fin de paie. Et pour ce que sens grant peine et travail ne peut estre faite telle besoingne, il plaist a nous et audit consoil que vous prenez etavez pour voz gaiges de tout ce que vous recevrez ou deduirez de chacune livre XII d. a prendre par vostre main. Et nous donnons en mandement a touz ceuls qui sont ou seront commis pour oir les comptes de la ville que ce que prins et detenu aurez pour raison de voz diz gaiges aloes en voz comptes et rabatent de voz receptes senz contredit. De ce faire vous donons pooir, mandons et commendons a tous les subgez du roy nostre sire de monseigneur le regent et de nous requerons autres que a vous et a voz depputez en ce fesant obeissant et entendent diligemment. Donne soubz nostre seel,

le VIII^e jour du mois de may, l'an de grace mil CCCLIX. Et ferez mises de la dicte recepte au mandement de Jaques Hugues ad ce commis lesquelles par raportant ses mandemens et quittances convenables nous voulons estre aloes en voz comptes. Donne comme dessus.

(Fol. 5 r^o)

Deffauz de tailles dehues a la ville de Provins et premierement de la taaille recehue par Pierre Despongnny environ Noel CCCLVII distraites par les parroches dont il s'entremette.

Saint Pere			
		Collot le Caillot	demi escu
		La gaillarde	demi escu
Pierre le griois	demi escu	Meline liraire	demi escu
Meline la Viloise	XI escuz	Jehan Barre	demi escu
Pierre de Mesabon	V escuz	Corbeillon	II escuz
Pierre le Vilois	VII escuz demi	Jehan de Joogni	II escuz
Regnaut de Govoys	V escuz	Mahiet le Fevre	demi escu
Guill Bose	V escuz	Guilot de Govois	VI escuz
Pierre d'Auroy	III esc. trois quart		
Jaquin le Granger	II escuz	Somme IIII^{xx}V escuz	
Haroy de la Noe	V escuz		
Perrin la Coste	I escu		
Guillaume la Poire	I escu		
Pierre le Mareschal	I escu	Sainte Croiz	
Jaquin Fournier	I escu	Jaque Berost	II escuz demi
Jehan de Bere Sergent	II escuz	Jaque Meresse	II escuz
Nicolas Couvent	II escuz	Nicolas Couve	III escuz
Jehanne de Bouston	II escuz	Jehan d'avalon	I mouston
Guill le Nilois	III escuz	Porriquet du Erambloay	III escuz
Jehan Martin	II escuz	Adam Ragot	II escuz
Jehan Marchant	demi escu	Guilot le fanneron	I escu
Perrin Huidelote fournisseur	demi escu	Jehan Bonnevie	III escuz
Jehan Berost	demi escu	Jehan Bourgeois, poissonnier	II escuz demi
Jehan Pichot	demi escu	Pierre de saint Aioul le juesne	II escuz
Jehan le Mareschal	demi moust	Jehan l'archer le juesne	III escuz
Thevenin de Suillannes	demi moston	Regnaut chastein	II escuz
Jehan Aliot	III escuz	Simon le Vavassour	I escu
Anthemie le lombart	demi mouston	La Pigote de Mussembien	II escuz
Laportiere de la meson Dieu	demi escu	Guillaume Fremost	I mouston
Guillaume la Grespier	demi escu	Jehane Jaque	demi escu
Guillequin de Courtaon	demi escu	Pierre de Bar, hulier	I escu
Piot la cellier	demi escu	Regnaut Cordelier	III escuz
Jehan Guillaume	demi moust	Le maistre des forces	I mouston
Jehan frere Doux le viel	demi escu	Lorent Boule	demi mouston
Jehan le Clere, charpentier	demi escu	Perrin de Chauveri	I escu

(Fol. 5 v^o)

Jehan Tuebuef	demi mouston	Matherin le Fevre	I mouston
Phelisot Estiennot	I mouston	Simon de Trie	III escuz
Roger le Filochier	I escu	Millot Chapon	I escu
Jehan de Compens le juesne	demi escu	Jehan de Bescon	demi mouston
Jehan de Chattes, procureur	demi mouston	Jehan de Gerannes	I mouston
Jehan Reynobt	I moust	Odin de Viezmesons	demi escu
Lorant Marchant	demi escu	Perrin Moustelon	I escu
La Gaubine	demi escu	Colin Poulain	quart d'escu
Huguenin l'orfevre	demi escu	Jehan le Fromager	demi escu
Jehan de Bourgoingne	demi escu	Guillaume le Noble	demi escu
Jaquin Eguillote	demi escu	Guille Broindse	I escu
Guillemin le contat et son frere	quart de mouston	Girant le Petit Picart	demi moust
		Jehan de Meleun	I escu
La pie de Boto	demi escu	Hanriot modin	demi escu
Raoulet d'Aci	demi moust	Gilot Foriot messon	demi escu
Richart de Gonnesse	demi escu	Maistre Nicolas clerc de saint Aoust	demi escu
Jehanne de cheuru	demi moust	Jehan Naalot	demi escu
Jaque le Sauveur	demi escu	Thevenin de Lisines	II escuz
Jaquin le françois	demi escu	Thiebaut de Veci	demi escu
Guiot le fer	demi escu	Guillaume Harart	demi escu
Le grant gautier	demi escu	Jehan de Fontenette	demi escu
Jehan de saint Quentin	demi escu	Perrin Muret	demi escu
Perrin le Buef de Molin nangis	demi escu	Jehan de Peci Huohier	demi escu
Guillet de Verie	demi escu	Simon Thouart	demi escu
Jehan d'Aussonne	demi moust	Estienne de champmorain	I escu
		Jehan Petit Mari	demi escu
Somme LVIII escuz III quarte I gros		Pierre de saint aioul le viel	demi moust
		Simon Guerin, charpentier	demi escu
		Huitier le masson	demi escu
		Maistre Regnaut de Senliz	I escu
Saint Ayoul		Robin de Vinci	demi escu
Pierre Cordelier	V escuz	Nicolas Provaune	demi escu
Jehan le liuteur	III escuz	Bureau le Masson	demi escu
Jehan du Plessie, louchor	III escuz	Geutfrin Crote	demi escu
Huguenin de le Meaulx et loir et la		Jehan de Troies	demi escu
Vaalote	III escuz		

(Fol. 6 r°)			
Ancelin le Serrurier	demi escu	Saint Aioul	
Jehan le tanneur	demi escu	Raoul de Coinci	XVs. de reste
Jehan de Chaumont	demi moust	Symon de Trie	III escuz
Jehan de Bruillecourt, tondeur	demi escu		
Symon Corrast	demi escu	Saint Croiz	
Jaquist Courtois	demi escu		
Jehan Ferrier	VII escuz demi	Posriquet du Tramblay	III s.
Guillot de la Bootiere	quart d'escu	Lorens de Brisolles et sa dame	VI escuz
		Jehan larcher	II escuz
Somme	LI escuz	Jehan de Saulier	II escuz
Somme des III parrochis ensemble		Jehan de Chastres, procureur	I mouston
IX ^{vs} XIII escuz demi, quart, I gros		Jaquin Chevalier, gendre Bonne Vie	I mouston
		Perrin le Pasticier	demi escu
Deffauz des eglises comprises en ladite		Collin Huillot	II escuz
taaille			
Nostre Dame du Val	XXX escuz	Saint Pere	
Le couvent de saint Aioul	VII escuz demi		
Le tresorier	II escuz demi	Pierre de Mesabon	X escuz
Le prieur de S ^{re} Croiz	VII escuz demi	Guillaume Rose	I escu
L'Ospital de Temple	XXV escuz	Pierre le Mareschal	I escu
Les Cordelieres	X escuz	Jehan de Vere	III escuz
La grant maison Dieu	XX escuz	Nicolas couvent	I mouston
Le minaige du Val	VII escuz demi	Guillaume le Vilois	I escu
Somme	CX escuz	Raoulin le charpentier	I mouston
		Jehan Berost	I mouston
Somme de tous les deffauz III ^e III		(Fol. 6 v°)	
escu III quarz I gros raporter		Saint Quiriace	
par Pierre d'Espongy			
Deffauz du prest ou taille recehue par Pierre		Girart de Bains	VI escuz
le François		Guillaume deru de reste	I escu
		Jehan Chicote	III escu
		Felis Foubert	II escuz demi
		Baudin le Tourbior	demi escu
		Jehan Benoist, charpentier	I mouston
		Somme des deffauz de ce premier prest	
		LXII escu demi et IIIs. gros a IIs. VI de	
		Tourn.	
		Deffauz du secont prest bailliez par ledit	
		François	

		Saint Aioul		Saint Quiriace	
Estienne de champmorain	I escu			Denisot le Charrest	I escu
				Gilot l'usurier	I mouston
La Bouteilliere	II escuz			Jaquete de Bugi	I mouston
Nicolas Provent	I mouston			La condete	demi escu
Ythier le Masson	I moust			La Bannose	I mouston
Maistre Regnaut de Senliz	I moust			Lucas le Lorgne	I escu
Perrin Moustelot	demi escu			La Basse mons. Jehan de Rampilon	I escu
Gollin de Senz	demi escu			Guillemin le pasticier	I escu
Jehan de Saint Sauveur	demi escu			Le noisin a la chevaliere	demi escu
Gile Broindre	I mouston			Auberi le Peletier	I escu
Girart Petit Picart	I moust			Thiebaut de la Tour	I escu
Symon Boole	quart de m			Gilet Bonelier	I escu
Mauriot Modin	I moust			Colin de Pontoise	I escu
Perrin Muret	I escu				
Pierre de S ^t Aus le viel	I escu				
Robin de Vinci	I escu				
Bureau le masson	I escu				
Baudin le couvreur	I escu				
Asselin le fruitier	I escu				
Jaquin de Freres	I escu				
Gillot Forgot, masson	I escu				
Jaquin le Marois	I escu				
Colin Hellent et Gile Hellant	II escuz				
		Saint Pere			
Jehan Aliot	I mouston				
Simon Morriel	I moust				
Aliot d'Aucerre	I moust				
Gilequin de Courton	I escu				
Robert de Beaune	I escu				
Jehan Guillaume	I escu				
Jehan le cleric, charpentier	I escu				
Ehevenin le mois	I escu				
Jaquin le Savetier	I escu				
Jaquin Hoche Bray	I escu				
Jehanin de Meleray	I escu				
Jehan Barre, procureur	I escu				

(Fol. 7 r ^o)		Adam lore de Savins pour composicion faite a XXIX jours de juing II escuz. Responce Jehan de la chapelle, drappier
	Sainte Croiz	
Jehan Boolot	demi escu	
Jehan char de Buef	I escu	Jehan le Picart d'anglure pour composicion faite a XXIX de juing II escuz Responce Bertaut du minaige.
Gilet de Verie cuvelier	I escu	
Maistre Jehan Pinon	I escu	
Jaquin Equillote	I escu	
Jaque le sauveur	I escu	Pierre Gigot de Songnoles pour composicion faite a XXIX de juing II escuz Devant les changes, prez de la meson Gilquin.
Michau le Bersenois	I escu	
Guiot de Fer	I escu	
Thiebaut de Paris	I escu	
Le grant Gautier	I escu	Baudin Thomas de Lioine pour composicion faite a XXIX jours de juing XV s.
Simon d'Amiens	I escu	
Perrin la Coste	demi escu	
Somme des deffauz de ce secont prest LXVII escuz III gros meins XII d.		La fame feu Pierre Bricorne pour composicion faite a XXX de juing I escu - Pleige la fame Colin de Palis
Somme des deux pres ensemble VI ^{ss} XIII escuz III quarz III gros meins XII d.		Thevenin de Brie, demourant a Nangis, pour composicion faite a I jour de juillet I mouston en la cinquantenne Gilequin.
Deffaus d'eglises		(Fol. 7 v ^o)
L'ospital du chastel	XV s.	Jehan Morin, de cele composicion comme il porra devoir
de rest d'escu a XX s.		Responce Adam le chaurrier
Le maistre de la meson dieu	XXXVI est. XV s.	
Le prieur de S ^{se} Croiz	X escuz	Jaque de Velonnesse demourant a Treygnel pour composicion faite a XXIX de juing XXV s.
Les Cordeliers de Provins	XVI liv.	Responce Adam Ragot
Le minaiges du Val	X escuz	
Somme LXXIII escuz demi		Michel de la Grange, demourant a Triffox pour composicion faite a XXVI ^e de juillet XXVI s.
Somme toute des deffaus rendus par Pierre le François liquel sont encor a lever et recevoir IX ^{ss} XVIII escuz demi gros		Responce Philippon de la viez ville
Ce sont li deffaut de ceulz qui ont compose pour la forteresse de Provins de gens forains venuz demourer en ladite ville bailler par Oudart de Suilaines.		Pierre Baudet de Chastiaubliaust pour tel composicion comme il porra devoir.
		Responce P. le François.
Jehan le Veau de Songnoles I escu pour Composicion faite a XXVIII jours de juing LVIII. Responce courvemelle du Chastel.		Thevenin Guiart de Pons seur Yonne a compose a I escu a XXII jours d'aoust
		Responce Jehan le luiteur.

Jehan Perceval le Bestre a compose a VIII s. a III jours de novembre Responce Simon le Berger	Odin le Bellot de la parroche S ^t Denis les Rebez II escuz sur drap de Paris qui doit avoir oudit de Suilaines.
Jehan de Villennosve demourant a Pigioly pour ce qu'il porra devoir Responce Jehan Tetuot	Jehan de Paris de Lorrers, mercier pour composicion a XXII de novembre XV s. Responce Regnaut Cordelier.
Mons Jehan le Damoiseil, pour ce qu'il devra Responce Gilot de Velonnesse	Pierre Remon pour tel composicion comme il puet devoir Responce Marie la Fletonne
Thomas Piot de Courtacon par composicion a V jours de novembre X s.	Jehan le Plaige de Basoi pour composicion a XXVI d' aoust V s.
Thanneau le Vilain de Meleray pour composicion a VI de novembre X s. Responce Gilot le Lorant de la rue aus bons homes savetier.	Somme toute XII escuz demi et V liv. XIX s. Somme toute de tous les deffauz cy dessus escripz V ^{ss} XVI escuz et CXIX s.

《注記》

(1) この部分は、Pierre de Juilliではなく、Pierre d'Espougrayの**はず**である。おそらくオリジナルの筆者によるミスと考えられる。ブルクワンのコピーでもこのことが指摘されている。

(2) この棒線は、この部分の項目が削除されたことを意味する。

